

## 大會餘錄

## 倉橋惣三

○幼稚園令が出るまでは永い苦闘であつた。何十回と數へらるべき決議、建議、絶叫、當路への訪問、議會への請願。而して、之れを要するに、いつも不滿の苦闘史であつた。それが、本年四月二十一日を以て、急に一轉したのである。我國最初の幼稚園令が愈々此の日を以て、われ等の前に公布せられたのである。現在幼稚園に直接の關係を有するものは勿論、苟も國の教育について廣い理解を有して居る人々は、全國に亘つて相祝し相欣んだ。地を遠く隔つるものは電報を飛ばして相祝した。——此の全國大會開催の發端は、實に此の時からといふべきである。

○全國聯合保育會は、此の全國的の氣運に基いて

之れを具體化することに機を失しなかつた。偶々野口援太郎君の下阪と共に、東西呼應の相談は急速度に結晶して、東西六團體（帝國教育會、全國聯合保育會、日本幼稚園協會、三市聯合保育會、東京保育協會、東京市保育會）を主催者とする準備委員會は、殆んどよなべ仕事の勢を以て其の準備を進めた。その最中である。大阪の村田次郎君から電報を以て、同市の樋口勇吉氏から千五百圓の寄附あることを報じて來たのは。準備委員の方では、豫て經費に聊か不用意を感じて居た處だつたのである。此の喜ぶべき電報が、計畫に一段の進歩を與へたことは問ふまでもない。われ等は樋口氏に向つて、深甚の謝意を表せざるを得ない。

○初め、委員間の豫定では、出席會員數恐らく三百位と見積りしてゐたのである。もつと正直にいへば三百名には必ず達せさせたいと希望してゐたのである。ところが、實際は非常の意外であつた。世の中の意外とは、多くは悲觀的意外であるが、此の場合はその反對であつた。すなはち會期の近づくに従ひ、出席の申込は、四百を超え、五百を超え、遂に六百を——當節の流行語でいへば突破するに至つたのである。何んといふ素晴らしき勢であらう。準備委員は、此の喜ぶべき大誤算のために、全くてんでこ舞をさせられて仕舞つたのである。但し、こんな愉快なるてんでこ舞ならいくらでも舞つていゝ。

○大會の前日、一切の準備は既に成つた。地方からの熱心なる出席者諸君も續々として上京せられた。もう明日を俟つばかりである。私は此のゆうべ、豫て東京放送局のプログラムに従つて「幼稚

園令の發布を喜ぶ」といふ講演放送をした。大會前夜、先づ全國の空氣にバイブレーションを與へて置いたといふ理屈になる。

○會場として提供せられた東京女子高等師範學校の講堂は、假建築ながらに、第一装の用意を以て全國の同志を迎へた。さしにも廣い大講堂も、六百を超ゆる會衆には、ぎつしり詰の議席をつくる他ない。互によく顔を見合はせて、討議熟議するといふ風にしたいと思ひながら、それは到底出來ないことであつた。之れも、盛會過ぎた喜びの一つとして數へて置くべきか。それに拘はらず、會員諸君の充分の發言あり、三日に亘つて腹藏なき意見の交換の行はれたことは、何よりのことであつた。たゞ、婦人會員が大多數であるのに、婦人諸君の發言の餘り多くなかつたことは、斯ういふ會として聊か物足りなかつた。

○その代り、研究發表はいづれも婦人方で、いづ

れも立派なものであつた。膳氏の老熟平淡なる雄辯を始めとして、田村氏の所説の整齊たる、松永氏の研究の嚴密に科學的なる、此の會に於て、婦人から多くを聽かんことを楽しみとして居たものに、十二分の満足を與へたといふべきである、いづれも、載せて別項にある。精讀を希望してやまない。

○第二日に於ける、本會議後の私立幼稚園諸君の會は非常に盛なものであつた。論調赤熱せる時はやさしい若い保姆諸君などは、氣を吞まれる位の盛會だつた。中には、新令の精神に對する多少の誤解といふ様のことあつたやに聞えたが、何しろ、思ふこと皆言ひつくし、疑ふところ皆解きつくしてこそ、大會の目的が達するのだ。實に斯くてこそ、大會らしかつたといふべきである。而して翌日、文部省の清水氏を招じて詳細の説明を煩はすに至つたのも、大會として誠に機宜に適する

ものであつた。論するだけ論じた後は、解けて晴れて、愉快なものである。いふまでもなく、帝國の教育に、公私の差別待遇はない。若し、聊かも、そういふ風のが生じたら、それは事務取扱者の小さな誤謬である。教へて正せばいい。

○豫定の議案を議了すると共に、幾多の緊急動議の成立を見たのも大會として、喜ぶべき成果であつた。而して、全會の空氣を通じて、われ等の一番に心を惹いたことは、その動議が、いづれも、我國の幼兒教育をして、眞に正しく發達せざるために必要なる主眼點を捕へて居ることだ。保姆待遇に關する諸問題の如き、實に皆それだ。若しそれ、之れを以て、教育が自分達の待遇向上を議して居るといふ意味に、妙に解釋したりするものがあつたら、事理に通せざる甚しといふべきである。自分を優遇して呉れといふのではない。斯の教育を優待尊重しなければならぬと議するのであ

る。將來もあることである。一言此點をはつきりして置く。

○第二日の夜、會を終ると共に、一同は、豫定の宴會々場に赴いた。議場とはまた違つた心持ちである。林東京保育協會長の挨拶を以て、テーブルを開き、和氣霽々の裡に互ひの談をつくした。食後、來賓として鎌田榮吉氏、木場貞長氏、木津淳一郎氏、棟居喜久馬氏、山樹儀重氏及び望月くに氏のスピーチがあつた。いづれも、興味深いお話をあつたが、特に振つてゐたのは、各演說者に對する、多田房之輔氏の誠意と奇智とに富める紹介の辭であつた。當夜一大景物として満場の喝采を博した。尙、前記演說者の方々の他、茨木校長、林伯爵夫人、菊地文部省參事官其他多數の來賓があつた。

○第三日、閉會の後、會員諸君は豫て御許しを得てあつた新宿御苑を拜觀した。しつとりとした曇

り日に、折からの綠蔭殊に濃かなるあたり、都塵の裡、全く別天地の感が深い。柔かい草を踏み、遠く煙る森を眺めて、靜寂と閑雅との間、三日間の興奮を淨められてゆく。特に拜觀の榮を賜はつたことを、しみじみと有り難く思ひつゝ、廣き御苑の隈々を賞で歩んだ。

○此夜、有志の人々の歌舞伎座觀劇があつた。名優の妙技に恍惚として、かれ人ともに、連日の疲れを忘れたことであつた。

○大會の生んだ幾多の決議に就ては、それ〴〵實行上の計畫を運んで居る。——幼稚園令は出た。大會は了つた。而して、我國幼兒教育の徹底と充實とは、正に之れからである。

### 會告

本誌は本號を以て七、八號としました結果、八月には發行しません。九月新秋に入るを俟つて再びお目にかゝるまで、讀者諸君の御健康を祈ります。